

委員会報告/会合8回

歌詞を公募し、全国から42点の応募がありました。選考基準を定めましたが、第1次審査、さらに第2次・3次審査においても優秀作品ばかりで難航しました。



振付委員会の様子

作曲は、市内在住の作曲家三原聡氏にボランティア制作いただき、何度も調整を重ねました。振付けは、市内11の踊りグループ代表が行い、市民誰もが踊り

歌詞公募の結果、全国から42点の応募

市民音頭

市民が一つの音頭を通じて、地域の連帯感の醸成と健康増進を図ります。



やすい踊りを考案しました。今後も踊り指導は、市内の踊りグループに行っていただく予定です。披露・普及のため、市内の民謡・伝統芸能グループと三味線指導者が演奏の練習を行っています。

歌詞選考結果▶最優秀賞＝能登濱吉(埼玉県)▶特別賞＝大野 清(洲本市)▶佳作＝柏木勝代(南あわじ市)、清水晴望(洲本市)、栄 孝治(南あわじ市)、村上 均(南あわじ市)、駒井 瞭(大阪府)、稲岡俊一(東京都)、吉岡敬一郎(群馬県) <敬称略>

南あわじ市ふるさと音頭

作詞 能登濱吉/作曲 三原 聡

Musical score for the song 'ふるさと音頭' (Hometown Anthem). It includes a melody line with lyrics in Japanese and a guitar accompaniment line. The lyrics describe the beauty of the hometown and the joy of returning.

A collection of lyrics for the song, organized into five numbered sections (一 through 五). Each section contains a line of lyrics, some with musical notation like 'ソレ' (Sore) indicating a chorus or specific note.



まちのシンボルは旧4町でも指定されていたので、合併直後から問い合わせが多数ありました。まちの特性を端的にイメージするものとして、皆さまに親しみと愛着をもっていただけることを主眼に選定しました。

市の木

くろまつ
「黒松」



科名:マツ科、属名:マツ属

【選定理由】

慶野松原は昭和3年、日本の名勝として指定されています。「日本の白砂青松100選」にも慶野松原と吹上浜が選ばれています。松原の黒松は、樹勢が強く観光の観点からも知名度があります。特に淡路黒松は、樹皮の切れ込みが深いのが特徴です。暑さ寒さに強くたくましく成長する松は、市を象徴する木にふさわしいとして選定しました。

市のシンボルを花と木に限定し選定

市の花・木

恵まれた自然や美しい景観を守り、次世代に伝えるとともに、観光の振興や地域の活性化をめざします。

市の花

にほんすいせん
「日本水仙」



科名:ヒガンバナ科、属名:スイセン属

【選定理由】

淡路島南部の灘黒岩水仙郷は、日本水仙三大群生地として知られています。45度の急斜面に500万本が咲き乱れる光景は、全国に誇れるすばらしい自然景観で、冬にいち早く春の訪れを告げる花として、観光拠点となっています。また、地元では「ちょこ水仙」の愛称で親しまれています。この自然遺産を守り続けるうえにおいても、市を象徴する花として選定しました。

シンボル専門委員会(市の花・木選定)

委員会報告/会合6回

委員会で候補として提案した花は、「水仙、梅、つじ、菊」でした。歴史や文化、生息数、希少さ、なじみやすさ、観光振興、保存伝承などを考慮し毎回議論を重ね、水仙に決まりました。

水仙は種類が多いこともあり、灘黒岩水仙郷の日本水仙が、花卉中央の杯部が大きく、黄色が濃いという特徴をもっていることから、あえて日本水仙としました。

木についても、最後まで絞り込みが難航しました。提案された木は、「松、ゆずりは、うばめがし、梅、や



専門委員会検討の様子

まぼうし」など数多く、議論が白熱しましたが、市民の親しみや観光振興を優先して黒松を選定しました。

選定するシンボルも、「鳥、魚、野菜、ホタル」などの候補もありましたが、その特殊性や認知度、産業振興等と区分し、最終的に花と木に限定しました。